

令和 3 年 4 月 13 日現在

機関番号：33804

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K14069

研究課題名(和文) 知的障害のある思春期女子の月経教育プログラムの開発と効果の検証

研究課題名(英文) Assessing the Effectiveness of a Comprehensive Menstrual Health Intervention Program for Adolescent Girls with Intellectual disabilities (IDs)

研究代表者

津田 聡子 (TSUDA, Satoko)

聖隷クリストファー大学・看護学部・准教授

研究者番号：20616122

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：知的障害のある女子の初潮年齢は、典型発達の子の初潮年齢とほぼ同じであることが報告されている。しかし、初潮前に知的障害のある女子に月経時の対応に関する教育効果についてはほとんど報告がない。この研究は、視覚的サポートに焦点を当てた月経教育プログラムにより月経時の対応への効果の有無を明らかにすることを目的とした。月経未初来の知的障害のある11人の思春期女子が参加し、参加する前、直後、1か月後の3回、人形のナプキン交換を実施し、15項目の内容を測定した。その結果、参加者の平均得点は、月経教育プログラムを受講する前後で有意に高くなり、障害の程度での差はみられなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、わが国においてほとんど報告のない知的障害のある思春期女子への月経教育の方法について言及した研究である。特に、月経未初来の知的障害や発達障害のある思春期女子に対して、月経の準備期に介入をした研究はほとんど見当たらず、本研究では月経準備教育における視覚的支援の効果とその持続性を確認した。その結果、教育プログラムの前後で一定の効果を確認することができ、またその効果は障害の程度による差は見られなかった。今後、知的障害や発達障害のある子どもに対して行う月経への準備教育として、学校現場や家庭に還元できるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：It has been documented that the age of menarche of girls with intellectual disabilities (IDs) is approximately the same as that of girls with typical development. However, a plan regarding how to teach these skills to girls with IDs before menarche remains unclear. This study aims to examine whether a menstrual education program focused on visual support affects the MHM skills of adolescent girls with IDs. Participants comprised 11 adolescent girls with IDs who had not yet experienced menarche. They were asked to change napkins on a doll three times; before, directly following, and one month after attending the program. The results of 15 items of MHM were measured. The scores of the 11 participants were significantly higher after taking the menstrual education program in comparison to before. This study demonstrated that comprehensive menstrual health intervention programs utilizing visualized materials and dolls are significantly effective for adolescent girls with IDs.

研究分野：学校保健 特別支援教育

キーワード：知的障害 月経 性教育 月経教育 特別支援教育

1. 研究開始当初の背景

思春期は、障害の有無を問わず身体的・心理的变化を伴う大変重要な時期である。知的障害のある女子の場合は、単に二次性徴によるホルモン分泌の変化だけではなく、障害ゆへの発達上の問題や、既存疾患の影響も考えられる (Albanese, A., Hopper, 2007)。そのため、教育においては、障害の状態に応じて重点化と個別化を図る必要がある。中でも月経はセルフケアが困難な場合も多く (Wallace, 2008)、第3者の理解やサポートが重要である (井上、2010; 河田他 2012)。しかし、わが国においては、知的障害のある思春期女子の月経に関する報告はほとんど見当たらず、適当な教材や教具がないことや、個人差が大きいため、教材を自作する場合も多いことが報告され、月経教育は各学校裁量となっていることも少なくない。

2. 研究の目的

本研究では、知的障害のある思春期女子の月経教育の実態把握を行うとともに、月経時のセルフケアを知的障害のある思春期女子が習得するための教育プログラムを開発・実施し、その効果を検証することを目的とした。

3. 研究の方法

2段階から研究を実施した。

まず第1研究では(1年目)、特別支援学校の教員の思いと月経指導の実態把握に注目し、半構成的面接を実施した。得られたデータを質的に分析し、カテゴリーを抽出した。その結果に基づき、保護者や支援者向けの小冊子を作成した。その後、第2段階として2年目から3年目にかけては障害のある思春期女子のと保護者に対する月経教育プログラムを実施し、その前後での子どものナプキン交換のスキルについて効果測定を実施した。

また、同時期に、作成した小冊子を用いた座談会を保護者に対して実施し、小冊子や座談会の効果について検証を行った。

4. 研究成果

1. 知見

1) 第1研究: 知的障害のある思春期女子に対する月経指導における特別支援学校の教員の思いと月経指導の実態

(1) 月経指導の実態

関西圏にある特別支援学校の養護教諭・教諭に協力を得、11名に対して半構成的面接を実施した。その結果、月経指導の実態は、11人中1人が、保健教育の中で系統的に月経教育を実施しており、使用している教材やプログラムがあると回答した。保健教育の中では行っていないが、必要時保健指導として実施していると回答した人は9名で、個別に保健指導として実施していた。

(2) 月経教育体制

月経教育体制として「校内体制」「月経指導」「月経教育体制上の課題」の3つのカテゴリーが抽出され、そのなかで校内体制として、4つのサブカテゴリーに分類された。準備教育体制が整っている学校では、パニックが起きないように事前に視覚的支援を用いた個別指導を整える準備をしており、月経周期を養護教諭が把握する保健管理を行っていた。月経教育が保健教育の中で実施されてはいない場合でも、個別指導として少人数で保健指導を行っている場合が見られた。

(3) 月経指導

月経指導の具体的な内容としては、時期や指導内容・留意点などの6カテゴリーに分類され、月経の認識を促すための指導では安心させるような声かけをしている、月経の機序そのものよりも月経という現象を受け止められるような指導、繰り返しナプキン交換に関する指導を視覚的に行っていた

(4) 月経教育体制上の課題

月経教育体制上の課題としては、教員は指導体制として系統的な形があったほうがよく、そのほうが保護者にも提案しやすいと思っている一方で、性について教員自身が苦手であったり、知的障害のある子どもに対する教材は特に少ないということが挙げられていた。

(5) 第1研究からの考察

月経教育体制は、先行研究同様、各学校裁量で保健教育の中に組み込まれている学校もあれば、個別対応として保健指導で実施しているところもあった。知的障害のある思春期女子に対する月経教育は、障害の程度や特性から適切な個別指導を選択することが重要で、統一は困難であるもののそのためにも情報ツールが必要であると考えられた。月経教育体制が各学校裁量で、未確立であること、教員の意識の差や教材の不足があることは、教員による指導力の差や、学校ごとの格差が生じることも考えられる。

2) 第2研究: 知的障害のある思春期女子に対する月経教育プログラムの開発と効果検証

視覚的支援に焦点をあて、人形を用いて遊びを取り入れた月経教育プログラムを実施した。教育の前・後・1ヵ月後に15項目の月経時の対応スキル(Menstrual hygiene management : MHM)を測定した。11名の知的障害・発達障害のある女子に対して効果測定を実施した。

(1) 思春期女子の背景

11名の平均年齢は、 9.4 ± 5.3 歳で、全員が月経未発来であった。知的障害のある思春期女子(Intellectual Disabilities :IDs)は5名、発達障害のある思春期女子(High Support Needs :HSNs)は5名、知的障害・発達障害を併存している女子は1名であり、全員が特別支援学校・特別支援学級に在籍していた。(Table.1)

(2) プログラム前後・1ヵ月後の総得点の変化

視覚的支援に焦点を当てた月経教育プログラムの前後・1ヵ月後にMHMのスキルについて効果検証を行い得点化した。その結果、プログラムの前後、また1ヵ月後において有意に得点が高くなっていた。(Table.1, Table.2)

Table. 1 Background of subject and the score of effect measurement

ID	Age	Type of Disability	Effect measurement (total score)		
			Pre	Post	1M-later
1	8.5	ID	0	26	23
2	8.5	ID	0	24	22
3	8.7	HSNs	0	17	21
4	9.4	HSNs	0	24	20
5	9.7	ID	0	23	23
6	10.9	ID/ HSNs	0	0	20
7	10.1	ID	0	22	26
8	10.4	ID	0	25	25
9	10.5	HSNs	0	22	24
10	10.8	HSNs	0	23	23
11	12.7	HSNs	8	23	25

HSNs: High special needs ID: Intellectual disorder

Table. 2 Mean of total score for all items of effect measurement (n=11)

	M (SD)		
pre	0.7(2.41)	0.00**	0.00**
post	20.8(7.27)		
1-month later	22.9(2.02)		
		n.s	

*P<0.05, **<0.01, n.s:no-significant

(3) 知的障害の有無による得点の変化

知的障害と発達障害を併存している1名を除き、知的障害と発達障害の障害別に効果検証の結果を分析したところ、この2群間に有意な差はみられず、どちらも前・後、教育前・1ヵ月後で得点が高くなっていた。

(Table.3)

Table. 3 Mean of total score for all items of effect measurement (for ID and HSNs-nonID) (n=10)

	ID		HSNs	
	M (SD)		M (SD)	
pre	0.0(7.94)	**	1.6(3.57)	**
post	24.0(1.58)	**	21.8(2.77)	**
1-month later	23.8(1.64)	**	22.6(2.07)	**

*P<0.05, **<0.01, n.s:no-significant

(4) MHM15項目ごとの得点の変化

MHM各項目の得点の変化について分析したところ、15項目中13項目で有意に前・後、教育前・1ヵ月後で有意な差が確認された。(Table.4)

Table. 5 Comparison of the total score of the effectiveness measurement items with the average score of each of the 15 items

	score		
	pre	post	1-m later
	M (SD)	M (SD)	M (SD)
1 Take in hand the pouch containing the napkin	0.00 (0.00) **	1.73 (0.64)	1.91 (0.30) **
2 Take the doll to the bathroom	0.00 (0.00) *	0.91 (0.94)	1.09 (0.83) **
3 Lower the pants and underwear of the doll	0.36 (0.81) **	1.73 (0.64)	1.91 (0.30) **
4 Place the doll on the chair	0.00 (0.00)	0.36 (0.80)	0.64 (0.81)
5 Pull out the sanitary napkin from the underwear	0.36 (0.81) **	1.82 (0.60)	2.00 (0.00) **
6 Wrap the sanitary napkin	0.36 (0.81) **	1.64 (0.67)	1.55 (0.52) **
7 Wrap the sanitary napkin in toilet paper	0.00 (0.00) **	1.64 (0.81)	1.64 (0.51) **
8 Throw the wrapped sanitary napkin in the trash can	0.00 (0.00) **	1.64 (0.81)	1.64 (0.51) **
9 Take the clean sanitary napkin	0.36 (0.81) **	1.82 (0.60)	2.00 (0.00) **
10 Pull out the paper from the sticky surface of the clean sanitary napkin	0.00 (0.00) **	1.82 (0.60)	1.82 (0.41) **
11 Place the sticky face of the sanitary napkin on the underwear of the doll	0.00 (0.00) **	1.73 (0.65)	1.91 (0.30) **
12 Throw the paper of the clean sanitary napkin in the trash can	0.00 (0.00) **	1.64 (0.81)	1.45 (0.52) **
13 Wipe the doll with a toilet paper	0.00 (0.00)	0.00 (0.00)	0.45 (0.52)
14 Put on the underwear and pants of the doll	0.00 (0.00) **	1.82 (0.60)	2.00 (0.00) **
15 Wash the hands of the doll	0.00 (0.00) *	0.64 (0.51)	1.00 (0.00) **

*P<0.05 vs pre, **<0.01 vs pre

(4) 第2研究からの考察

本研究は、視覚資料と人形モデルを使用した包括的な月経教育プログラムが、知的障害、発達障害のある月経前の思春期の少女のMHMスキルを助けるのに効果的であることを示した。彼女らのMHMは、年齢や知的レベルの影響を受けず、1ヶ月以上持続した。人形を使った月経教育は、月経の積極的な受け入れにつながる可能性がある。この介入を開始する最適な時期と、プログラムに含めるべき基本的なスキルを決定するためには、さらなる研究が必要であることが考察された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 津田聡子	4. 巻 25
2. 論文標題 知的障害のある思春期女子の月経教育 保護者と支援者に対する講習会を実施して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神戸大学教育学会	6. 最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 津田聡子
2. 発表標題 知的障害のある思春期女子の月経教育に関する実態調査
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津田聡子
2. 発表標題 知的障害のある思春期女子の月経教育に関する実態調査 本人の月経への認識や行動に関する一考察
3. 学会等名 第61回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津田聡子
2. 発表標題 知的障害のある思春期女子の月経教育に関する実態調査
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津田聡子
2. 発表標題 知的障害のある思春期女子の月経教育に関する実態調査 本人の月経への認識や行動に関する一考察
3. 学会等名 第61回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 S. Tsuda, M. Chika, C. Kondo, S. Takada
2. 発表標題 Teaching Menstrual Hygiene Management to Adolescent Girls with Intellectual Disabilities and High Support Needs.
3. 学会等名 32nd ICM Virtual Triennial Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関